



写真提供：山本浩一氏

## Contents

平成20年度成果公開シンポジウムの開催予定 P.1

東京シンポジウム開催報告 P.1 .2

平成20年 佐賀大学  
有明海総合研究プロジェクト  
成果公開シンポジウム

主催  
佐賀大学  
有明海総合研究プロジェクト

会場  
理工学部6号館

お問い合わせ  
佐賀大学  
有明海総合研究プロジェクト  
事務局

■住所 840-8502  
佐賀市本庄町1番地  
有明海総合研究  
プロジェクト

■電話 0952-28-8846  
■FAX 0952-28-8846  
■E-mail ariakeinfo@  
ml.cc.saga-u.ac.jp

## 速報

### 平成20年度成果公開シンポジウム 開催日が決定しました。

日時：平成21年5月23日(土)

場所：佐賀大学理工学部6号館

詳細が決まり次第、Webに掲載いたします。

<http://www.ariake.civil.saga-u.ac.jp/>

## 東京シンポジウム開催報告

### 佐賀大学有明海総合研究プロジェクト

「有明海の自然環境保全と地域社会発展の両立を目指して」

日時：平成21年1月13日(火)午後1時～午後5時

場所：キャンパス・イノベーションセンター東京（東京都港区芝浦）

参加者数：85名(学内参加者含)

有明海総合研究プロジェクト プロジェクト長 荒牧 軍治



2000年冬の大規模な海苔の色落ち被害により一挙に社会問題となった有明海環境問題に集中的に取り組むことは有明海湾奥部に位置する地元大学の責務であるとの認識から、佐賀大学は、文部科学省特別教育研究経費の支援を受け、「有明海総合研究プロジェクト」を立ち上げて集中的な研究を行ってきました。

本プロジェクト研究は、有明海異変の解明と再生に向けた取り組みを目的とした有明海特措法に基づく調査研究事業と位置づけられていることから、調査研究に参画している環境省、文部科学省、国土交通省等の関係官庁、各種研究機関の担当者及び各大学の研究者に幅広く有明海総合研究プロジェクト研究成果を理解していただくことを目的に東京シンポジウムを開催しました。



学長挨拶、プロジェクト長総括の後、各部門の研究者によって下記の研究成果発表の後、質疑応答を行いました。総じて好意的な討議に終始しました。

「有明海における環境異変の要因と再生可能性について」速水祐一准教授

「有明海における環境異変の要因と再生可能性について」山下宗利教授

「有明海における微生物学的手法による病害菌防除について」小林元太准教授

休憩後、「佐賀大学における今後の有明海研究」をテーマに合同ディスカッションを行いました。

ディスカッションには、上記3名の発表者に加え、有明海総合研究プロジェクトの外部評価委員長を務めていただいている本城凡夫九州大学名誉教授、佐賀県で有明海問題の最前線で活躍されている八谷陽一郎有明海再生・自然環境課長、佐賀大学でもう一つの有明海研究プロジェクトを実施している荒木宏之低平地研究センター長にパネリストに加わっていただき、プロジェクト長の司会により佐賀大学における今後の有明海研究の方向性を中心にディスカッションを行いました。

本城先生からは、佐賀大学有明海総合研究プロジェクトの研究成果は当初予想した以上に優れたものであること、地元大学の責務としてこれまで成果を挙げてきた研究者を確保して研究を継続することが必要であるとの意見が述べられました。

また、八谷課長からは、佐賀県が有明海問題に取り組むには佐賀大学の研究支援が不可欠であること、荒木低平地研究

センター長からは、有明海総合研究プロジェクトと低平地研究センターが共同で有明海問題に取り組むために、組織再編に向けた取り組みを行っていることの報告がありました。

最後に、荒牧有明海総合研究プロジェクト長から、佐賀大学は中長期ビジョンで「有明海をめぐる環境問題」を今後取り組むべき重点研究課題としていること、研究だけでなく教養教育、専門教育に積極的に取り組むとともに、有明海に関連した大学との教育コンソーシアムの確立に向けた取り組みを開始するとの報告がありました。

これらの報告を受け、会場の参加者とのディスカッションを行いました。佐賀大学が地域の課題に積極的に取り組んでいることに多くの賛意が寄せられました。

本シンポジウムには、文部科学省、農林水産省、国土交通省、(財)港湾空間高度化環境研究センター、水産庁、海上保安庁、佐賀県、千葉県、佐賀市、九州大学、北九州市立大学、山口大学、信州大学、NPO法人等の行政担当者、研究者に加え、東京佐賀県人会、佐賀大学同窓会からの参加者があり、総参加者数は85名となりました。

シンポジウム終了後、交流会を開催しましたが、参加者から佐賀大学の有明海研究の進展ぶりに多くの賛辞を戴きました。

### 研究成果報告の一コマ

